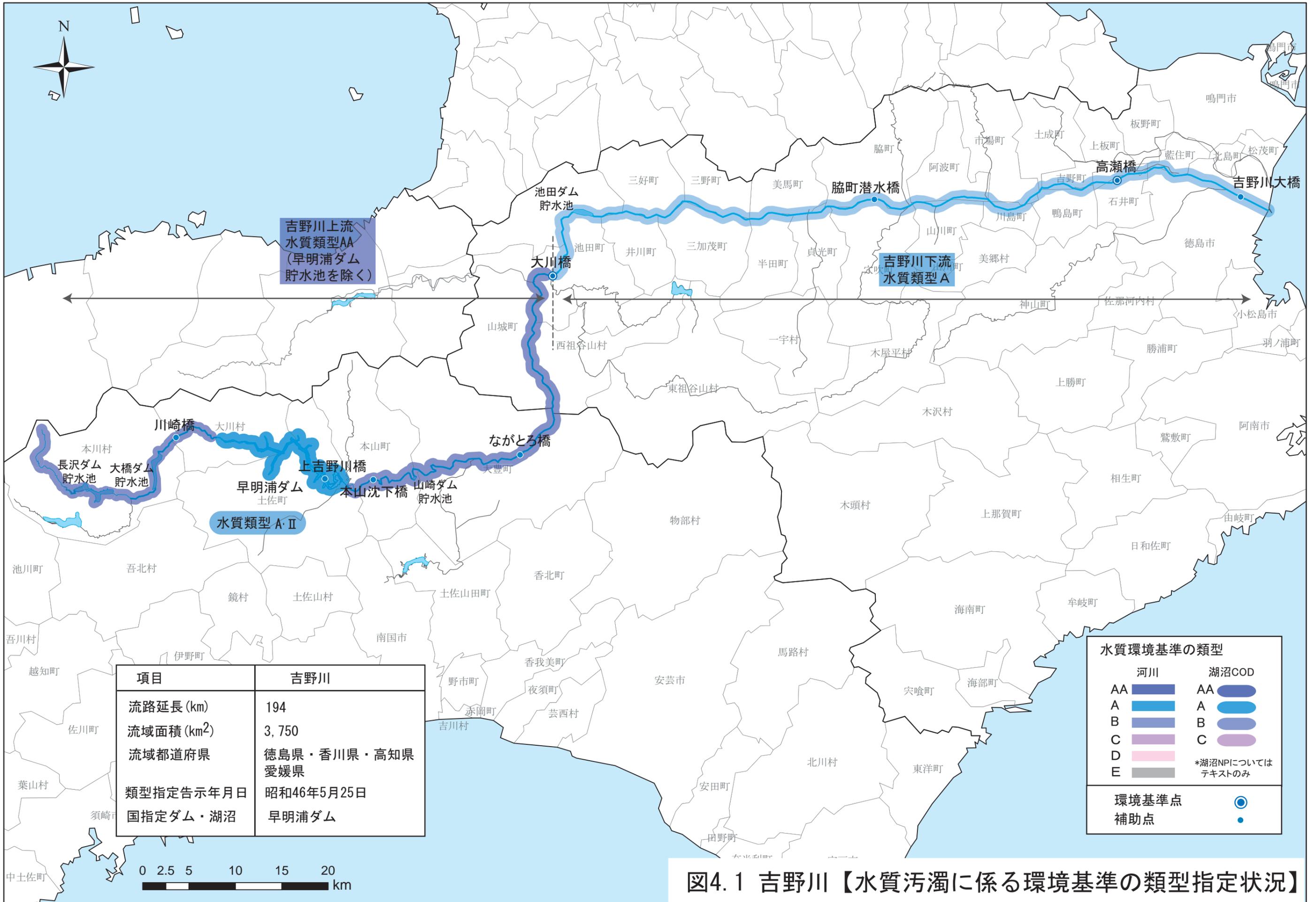


表 3 . 3 大和川の魚介類生息状況に関する学識者や漁業関係者へのヒアリング結果の整理

対象ゾーン	流域全般	下流域	上流域
魚介類の生息に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「資料」の出現魚種で妥当</li> <li>・ オイカワ(下流)・カワムツ(上流)が中心(亀ノ瀬で概ね分かれる)</li> <li>・ アユは河床が砂地で石が少なくほとんど生息できない</li> <li>・ 生物相は比較的単相。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「資料」以外にシラスウナギ、セイゴ、スズキ、ハゼ、タチウオ等が生息(増水でアユも)</li> <li>・ シラスウナギは河口部</li> <li>・ 水質改善に伴い魚種は増加傾向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コイ・フナが中心。</li> <li>・ ブラックバス・ブルーギルが増加(駆除もやっている)</li> <li>・ オイカワ・カワムツは元々少ないが、水質改善に伴い、増加。</li> <li>・ 亀ノ瀬近辺は大きなコイが生息。</li> <li>・ ドジョウ等も見られるようになった。</li> </ul>
再生産に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大和川の河床は砂地であり、砂礫で産卵するオイカワ・カワムツには産卵適地である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 河口部にカレイ等の産卵場(春先に稚魚)。</li> </ul>	
放流に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上流のアマゴは放流されたもの。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アマゴは漁協で放流している。</li> <li>・ アユの放流等が行われている(地元幼稚園等を対象とした啓発的なもの)</li> </ul>
河川環境に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人為的な影響を受けている河川。</li> <li>・ 後背に大きな山が無く、流量は少なく、大規模なダムはない。</li> <li>・ 河床は砂地が主体。</li> <li>・ 水質は改善傾向だが、河口部は依然として悪い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近年、河床が砂がたまって高くなってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 亀ノ瀬近辺は溪流状。</li> </ul>
過去の情報			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 桜アユとして天皇陛下へ献上していた。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オイカワは日の当たりの良い場所を好んで生息。</li> <li>・ カワムツは日陰を好んで生息。</li> <li>・ 水温は、最高値と最低値を表示して検討すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大和川再生協議会にて、清掃を約3,000人規模で実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水質は良くなってきたが、ゴミは多い。</li> </ul>

環境省調査((社)淡水生物研究所森下所長、大和川水域河川漁業協同組合、大阪住吉漁業協同組合への平成17年度ヒアリング調査)



項目	吉野川
流路延長 (km)	194
流域面積 (km <sup>2</sup> )	3,750
流域都道府県	徳島県・香川県・高知県 愛媛県
類型指定告示年月日	昭和46年5月25日
国指定ダム・湖沼	早明浦ダム

**水質環境基準の類型**

河川		湖沼COD	
AA		AA	
A		A	
B		B	
C		C	
D		*湖沼NPIについてはテキストのみ	
E			

**環境基準点**

**補助点**

図4.1 吉野川【水質汚濁に係る環境基準の類型指定状況】

表4.1 近年の水質状況(吉野川)

河川

水系名	類型	環境基準点	年度	BOD(mg/l)				pH	
				最小 ~ 最大	平均	75%値	基準値	最小 ~ 最大	基準値
吉野川上流	AA	大川橋	H15	0.5 ~ 1.1	0.6	0.5	1	6.6 ~ 7.6	6.5 ~ 8.5
			H14	0.5 ~ 1.1	0.6	0.7		6.7 ~ 7.7	
			H13	0.5 ~ 1.4	0.8	1.0		6.7 ~ 8.4	
吉野川下流	A	高瀬橋	H15	0.5 ~ 1.1	0.8	1.0	2	7.3 ~ 7.9	6.5 ~ 8.5
			H14	0.5 ~ 1.0	0.7	0.7		7.2 ~ 7.5	
			H13	0.5 ~ 1.4	0.8	1.0		7.4 ~ 7.7	

環境基準点	年度	DO(mg/l)			SS(mg/l)			大腸菌群数 (MPN/100ml)		
		最小 ~ 最大	平均	基準値	最小 ~ 最大	平均	基準値	最小 ~ 最大	平均	基準値
大川橋	H15	8.0 ~ 12	10	7.5	1 ~ 1	1	25	70 ~ 2,400	720	50
	H14	8.4 ~ 13	10		1 ~ 2	1		33 ~ 13,000	1,800	
	H13	8.3 ~ 12	10		1 ~ 70	7		49 ~ 7,900	1,900	
高瀬橋	H15	7.9 ~ 13	9.6	7.5	1 ~ 4	2	25	330 ~ 13,000	3,800	1,000
	H14	7.2 ~ 11	9.3		1 ~ 6	2		94 ~ 49,000	4,900	
	H13	7.6 ~ 11	9.5		1 ~ 5	2		460 ~ 17,000	3,500	

湖沼

水系名	類型	測定地点	年度	COD(mg/l)				pH	
				最小 ~ 最大	平均	75%値	基準値	最小 ~ 最大	基準値
早明浦ダム	A	上吉野川橋	H15	1.0 ~ 2.0	1.5	0.5	3	7.6 ~ 8.7	6.6 ~ 8.5

測定地点	年度	DO(mg/l)			SS(mg/l)			大腸菌群数 (MPN/100ml)		
		最小 ~ 最大	平均	基準値	最小 ~ 最大	平均	基準値	最小 ~ 最大	平均	基準値
上吉野川橋	H15	8.8 ~ 12	10	7.5	1 ~ 2	2	5	1,700 ~ 1,700	1,700	1,000

水系名	類型	測定地点	年度	全窒素(mg/l)			全燐(mg/l)		
				最小 ~ 最大	平均	基準値	最小 ~ 最大	平均	基準値
早明浦ダム	A	上吉野川橋	H15	0.15 ~ 0.28	0.21	0.2	0.003 ~ 0.006	0.005	0.01

(出典: 公共用水域の水質測定結果)

- 公共用水域水質測定結果 平成13年度～平成15年度  
 水質汚濁防止法の規定に基づき、全国の都道府県が毎年定める測定計画に従って、都道府県、水質汚濁防止法政令市のほか、一級河川のうち国の直轄管理区間については、国土交通省地方整備局等によって実施される。  
 原則、河川は表層(水深の2割の位置)、湖沼は表層(成層期には成層を配慮)、海域は表層、中層(必要に応じて下層)の測定結果である。

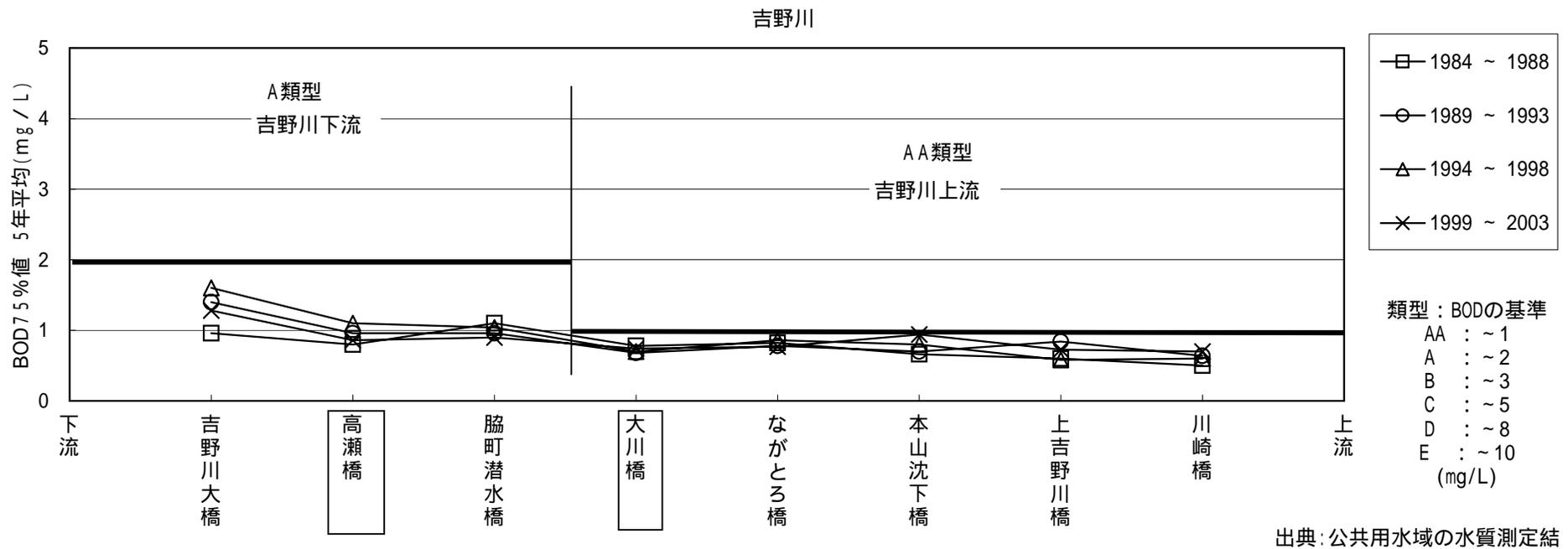


図4.2 BOD75%値の水質縦断分布

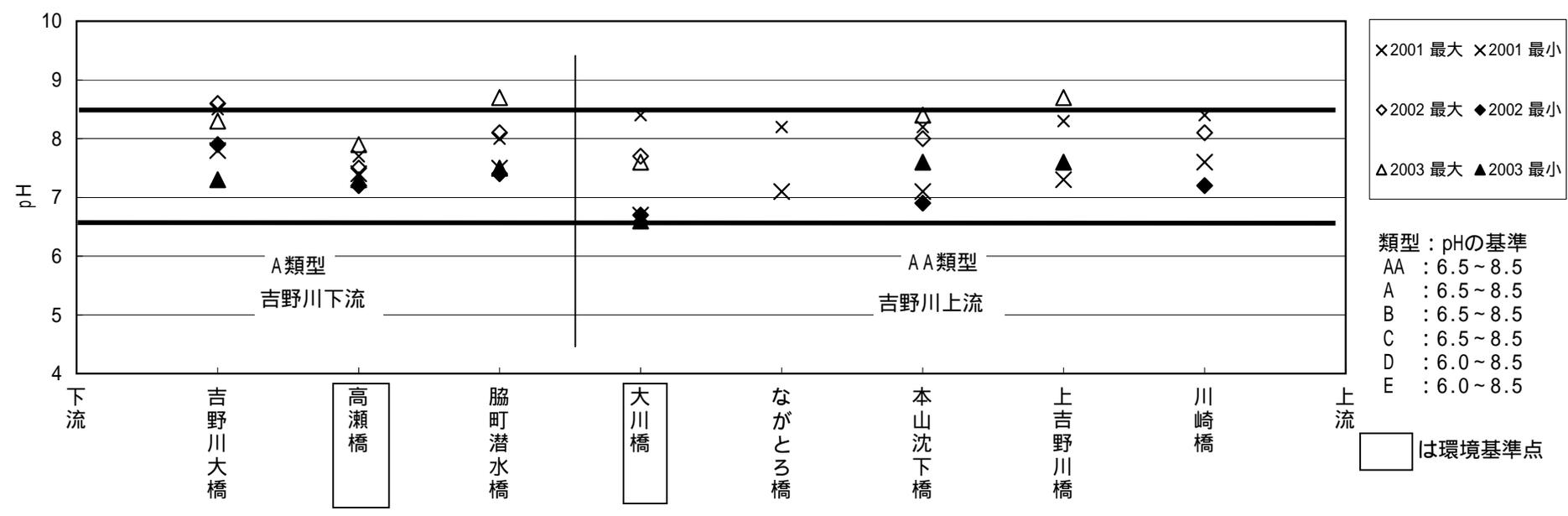


図4.3 pHの水質縦断分布

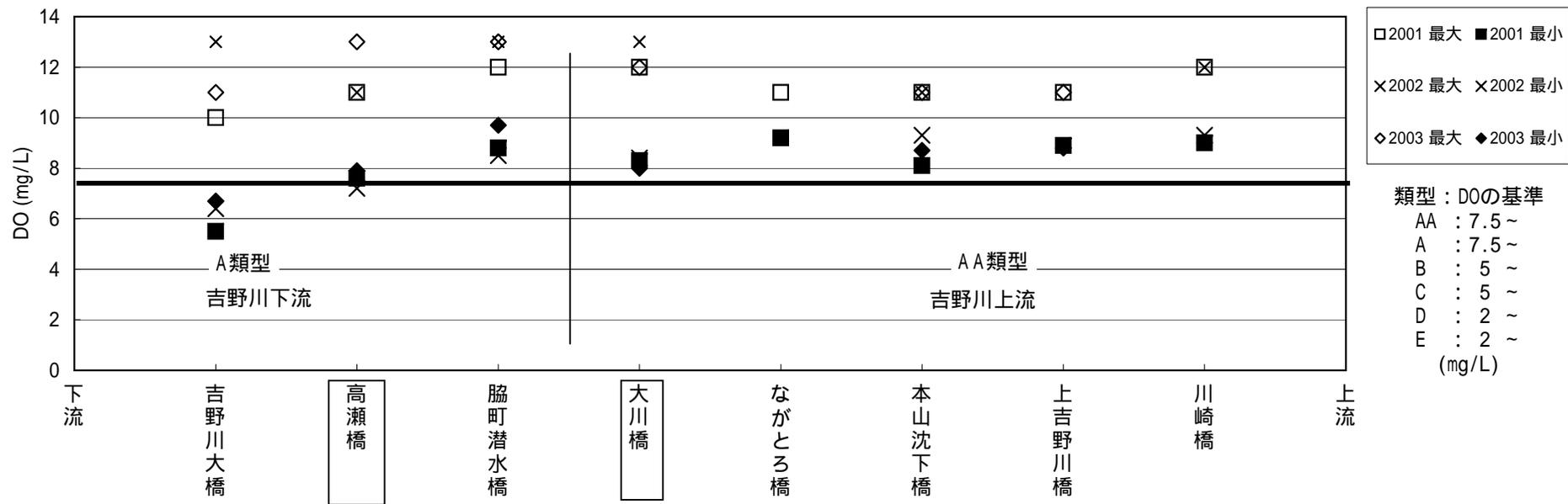


図4.4 DOの水質縦断分布

出典：公共用水域の水質測定結果

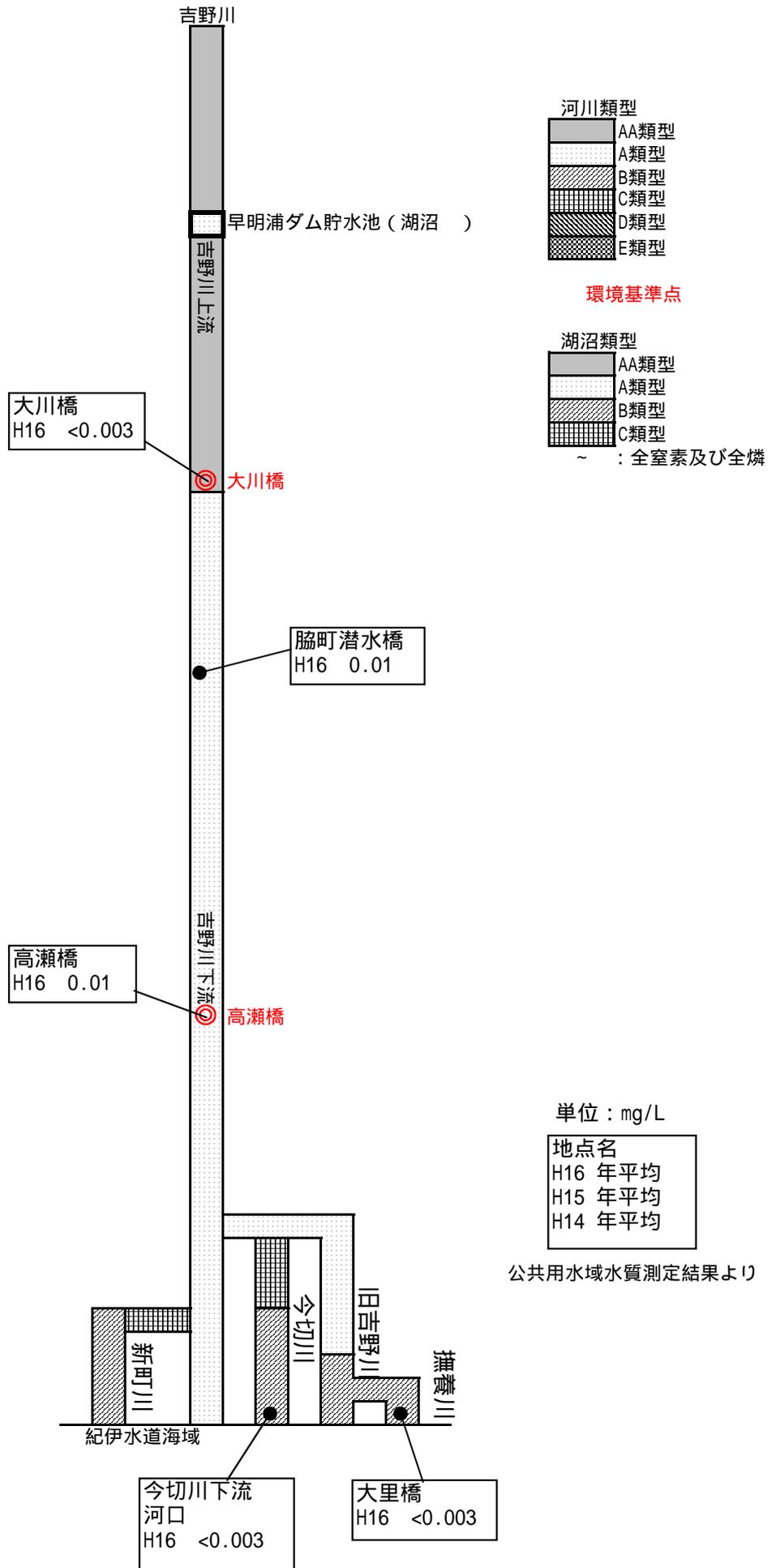


図 4 . 5 吉野川亜鉛検出状況